

ひらめき☆ときめきサイエンス「遺伝子の傷を治すしくみと生命」を開催

金沢大学自然科学研究科薬学系

教授 松永 司

この企画は、本年度から独立行政法人日本学術振興会の新しい事業としてスタートしたものであり、中学生や高校生が大学の研究者や最先端の研究成果の一端に触れることで、学術と日常生活との関わりや、科学（学術）がもつ意味について理解を深めることを目的としている。初年度は、全国 22 大学で 35 のプログラムが用意され、金沢大学薬学部では 12 月 24 日（土）に大学院自然科学研究科（薬学系）生命科学専攻の松永研究室が中心となって、「遺伝子の傷を治すしくみと生命」をテーマとして実施した。

当日は中学生 30 名、高校生 1 名、保護者 6 名、大学関係者 13 名の参加に加えて、日本学術振興会・本事業推進委員会の中島委員（明治大学農学部）も遠路参加され、一日をともにした。松永研究室は、文部科学省ならびに日本学術振興会の科学研究費補助金の助成を受け（平成 12-16 年度特定領域研究、平成 14 年度萌芽研究、平成 15-16 年度基盤研究 (B)、平成 16-17 年度若手研究 (B) など）、ヒト細胞がもつ DNA 傷害に対する防御応答機構の分子メカニズムについて研究を進めており、まずその背景と研究成果についてわかりやすく解説した。その後、実際に参加者が染色体標本を顕微鏡で観察したり、培養ヒト細胞から DNA を抽出してエタノールで沈殿させるなどの生命科学実験を体験した。さらに、完成して間もない自然科学研究科棟の講義室や自然科学系図書館の充実した設備を見学し、また学生食堂での昼食やフリースタイルでは研究者や大学院生と交流した。

12 月には珍しい大雪の中、一時は開催も危ぶまれたが、富山県からの参加者もあり、中学生たちの熱心に聞き入る顔や楽しそうに実験している姿を見て、こちらも貴重な経験と勉強をさせてもらったと感じている。今回、中学生を対象として募集したのは、高校生に比べて大学や研究に接する機会が少ないことや、科学（学術）に関心を持ってもらうにはより感性の高い年齢層へのアプローチが必要との思いからであったが、個人的には間違っていなかったと考えている。今後もこのような企画が発展的に継続され、より多くの子供たちが参加して科学（学術）の世界に興味をもってほしいと願うばかりである。クリスマス

スイズの土曜日開催にもかかわらず、参加してくれた中学生・高校生の諸君、引率の父兄や先生方、ならびに協力いただいた本学のスタッフ、大学院生諸君に心から感謝したい。



実験の説明を聞く中学生達



顕微鏡で染色体を観察する中学生達